

09/12/2023 06:00:00 [JBN] Bloomberg Japanese News (in Japanese)

日銀の政策修正、銀行株に2倍の上昇余地—好成績の日本株ファンド

- マイナス金利政策は早ければ年内にも解除か—エバーリッチの宇田氏
- 邦銀株はPBRで割安、株価に上昇余地—アトム・キャピタル

【記者：田村康剛】

(ブルームバーグ)：日本銀行が早期に政策修正するとの観測が浮上する中、上位2%の運用成績を誇る日本株ファンドは新しい金融環境に備え、銀行株の持ち分を増やす用意があるという。

エバーリッチ・アセット・マネジメントの宇田豊社長は、日銀は年内にもイールドカーブコントロール（長短金利操作、YCC）やマイナス金利政策を解除するとみており、銀行株は今後1年半ほどで2倍まで上昇するとブルームバーグとのインタビューで語った。



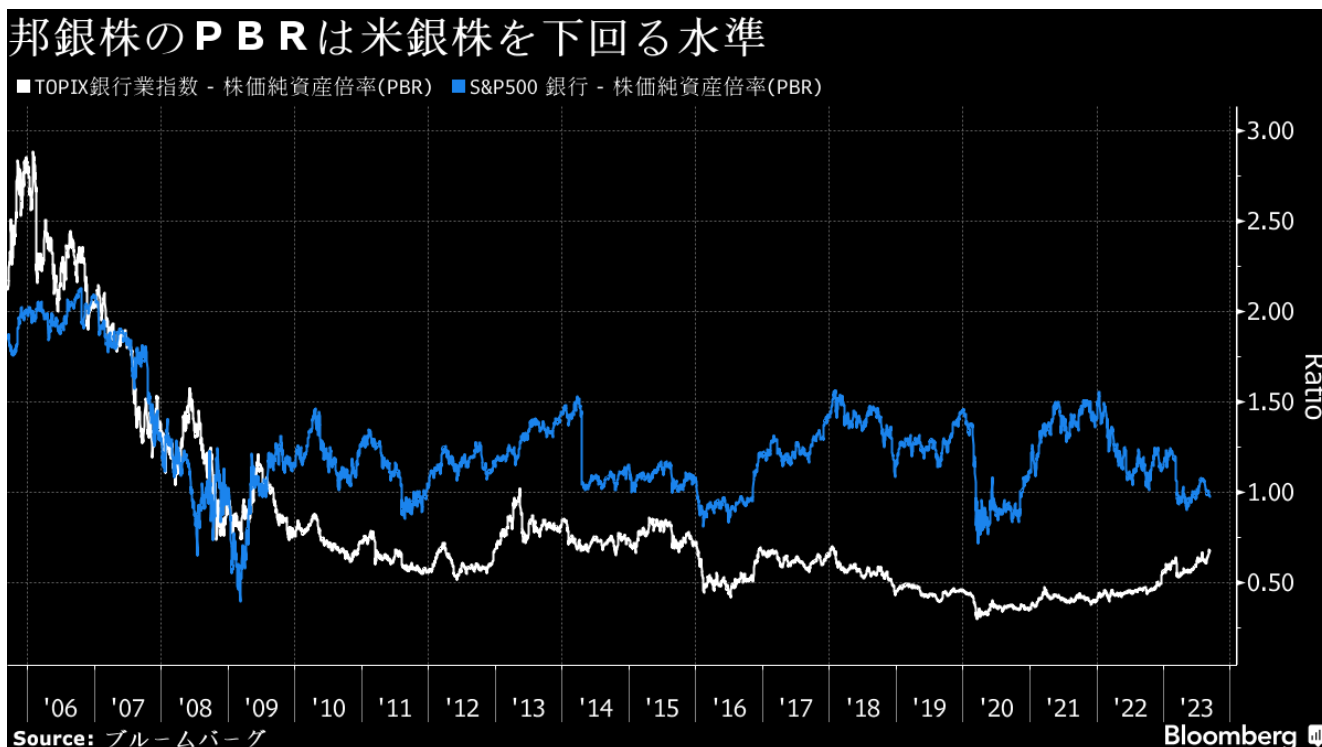
日銀の植田和男総裁は、賃金や物価の好循環を見極める情報などが年内にもそう可能性があるとして、9日付の読売新聞とのインタビューで述べた。週明け11日の日本市場では、年内のマイナス金利解除の可能性が意識され、長期金利が9年8カ月ぶりの高水準まで上昇した。金利上昇は銀行など金融機関の業績押し上げ期待につながる。

植田総裁発言受け市場は早期正常化を意識—予想前倒し相次ぐ

宇田氏が運用するファンドで銀行株の保有ウエートは全体の20%に達しているが、「まだ増やす余地はある」と語

る。日本経済が力強く成長する中、日銀の政策先行きを考える上で重要な賃上げも持続的になるとの見解を示した。

同氏の運用するニッポン・グロース・ファンドは約160億円を扱っており、ブルームバーグのデータによると同業ファンドの98%以上を上回る成績だ。ファンドは年初来で37%以上のリターンを生み出しており、同期間のTOPIXの上昇率25%を大きく上回る。



植田総裁の政策修正を示唆する発言について、アトム・キャピタル・マネジメントの土屋敦子社長は、修正時期は予想していた来年よりも早いと話す。土屋氏は、アトムが算出する適正価格から考えると30%の値上がりは期待できると述べた。ファンドは株価純資産倍率（PBR）といった指標などを基に株価を評価する。

割安なPBRに加え、政策修正が株価押し上げに寄与するとみている。土屋氏は、2022年12月に日銀が10年債利回りの許容変動幅を拡大した際に、銀行株を買ったと話す。設立以来の助言や運用成績は年率15%だという。先行きが不透明な中国経済などを背景とした海外投資家の日本株買いは相場を押し上げるとも述べた。

エバーリッチの宇田氏は、今後3年で物価上昇率を2%以下に抑えることすら難しい状況がくるのではないかと指摘する。「全く違うマーケットに入っていることを認識しなければいけない」との見解を示した。

関連ティッカー:

1428730D JP (Evarich Asset Management)

EINGROA ID (EI Sturza Funds PLC - Nippon Growth UCITS Fund)

記事についての記者への問い合わせ先:

東京 田村康剛 ytamura17@bloomberg.net

記事についてのエディターへの問い合わせ先：
西沢加奈 knishizawa5@bloomberg.net
中川寛之、上野英治郎